

277

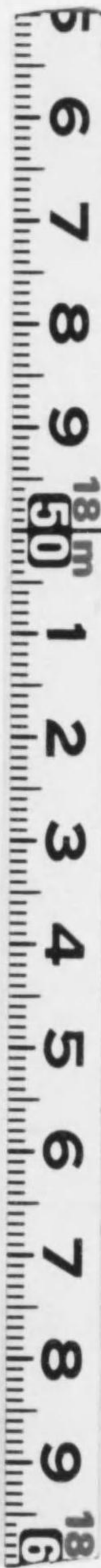


女性の新生理學

DIE NEUE PHYSIOLOGIE
FÜR
FRAUEN

特253

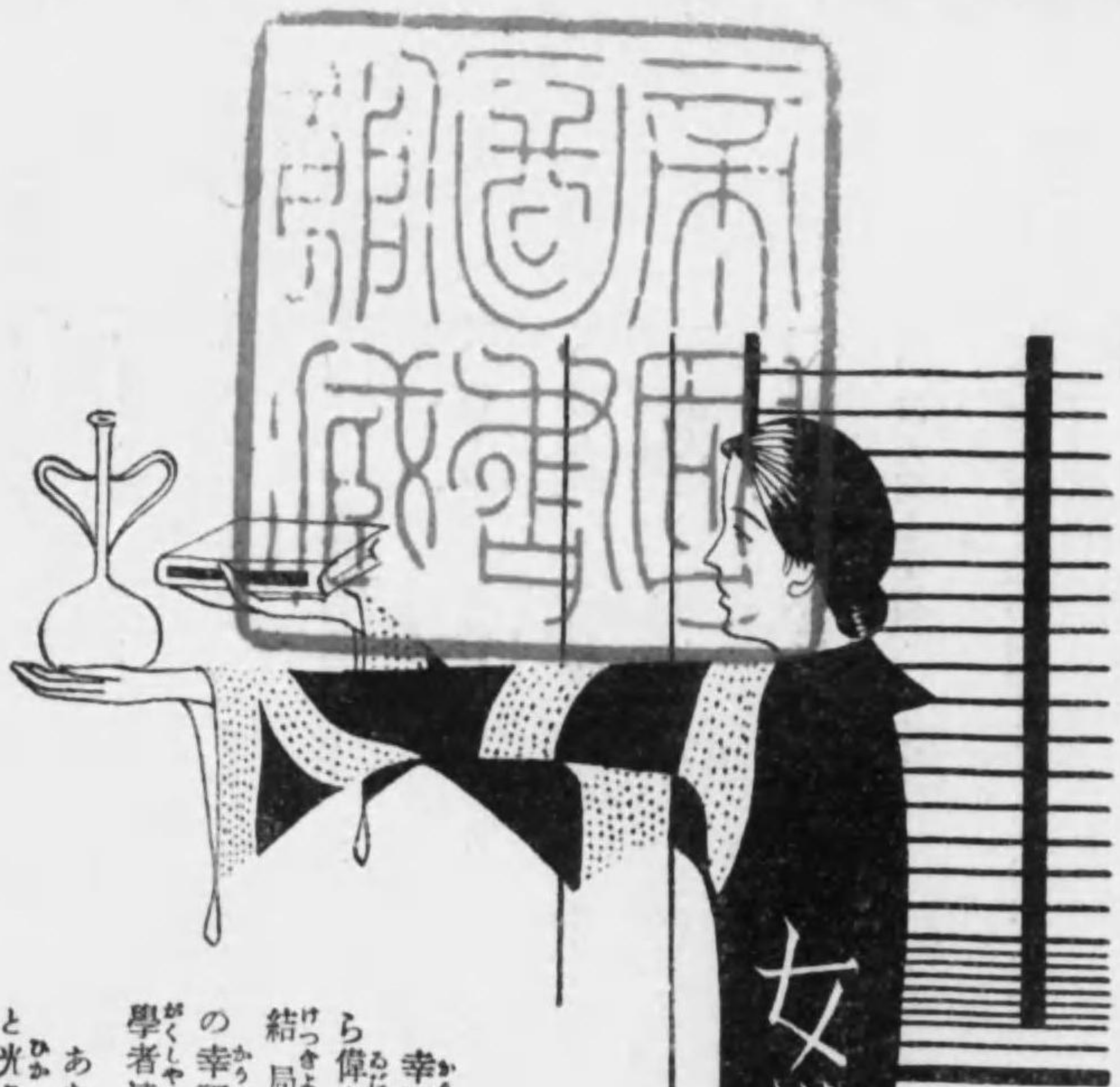
159



始



特253
159



女性の新生理學

幸福への道を拓いて

幸福とは私共の手の届かぬ高い所にあるのだと思つてゐます。昔から偉大な大哲學者達が「幸福とは何ぞや？」と頭を痛めたのですが、結局、幸福の正體を掴む事が出来なかつたのでした。さうでせう。眞の幸福はそんな高い所にあるのではなく、ほんの手近にある事を、大哲學者達にも列らなかつたのです。

あなたの幸福は『女性の新生理學』をお讀になつた瞬間から、きらりと光りがさして参ります。どうぞ、最後まで噛みしめ噛みしめ御熟讀下さい。



- 一、女性の運定め……………(1)
- 一、月 經 痛……………(3)
- 一、不妊症は婦人病につきもの……………(4)
- 一、婦人病の治療は斯うして手遅れになる……………(6)
- 一、帯下の色と悪臭に注意……………(10)
- 一、婦人病に起る諸徴候……………(12)
- 一、婦人病の原因……………(18)
- 一、婦人病の症状……………(22)
- 一、婦人病と手術……………(27)
- 一、婦人病と性的の問題……………(29)
- 一、昔からある婦人薬……………(30)

- 一、局所薬が最も良い理由……………(32)
- 一、斯様な挿入薬はよくない……………(34)
- 一、専門治療の家庭化……………(37)
- 一、醫科大學から發表された實驗報告……………(38)
- 一、病院で實驗した治療成績……………(39)
- 一、現在の臨床藥理學で最も進歩した婦人薬
- 病芯療法が出来る……………(41)
- 純粹グイタミンAD療法も……………(44)
- 女性ホルモンの高單位新療法も……………(45)
- 一、最高の製藥術で出来てゐる……………(47)
- 一、女性の居る處必ずワセトン球を……………(49)
- 一、女性の幸福への新燈臺……………(50)

女性 の 運 定 め

「健全な生殖器は健全なる女性の生活を造る」と申しますと、如何にも異様に聞えますが、その意味は既婚者ならば誰人にも直ぐ理解が出来る位痛切な言葉で、とりわけ、婦人病の爲めに自身の生活も、一家の幸福をも破壊された婦人にとつては實に肺腑を抉る様な事實であります。

婦人病と女性の不幸不運は、影の形に添ふ様に確乎手を組んでゐるのであります。早い話が、夫婦生活を根柢から破壊し、家庭を不和にする直接の原因と申せば、大抵婦人病とそれから起る不感症、冷感症、不妊症、ヒステリー等である事でよく判ります。

婦人病のある妻は必ず性生活を嫌ひ、苦痛を訴へるものであります。夫婦生活は夫婦の精神的結合にあるのだと、いくら威張つて見ても、結局は夫婦生活の基調となるもの、兩者を固く結びつけるものは本能である性の満足と調和で、それが圓滑に行へぬ様な肉體ではどうして微妙な精神的結合がしつくり生れませう。

女の心は子宮にある

「女の心は子宮に、男の心は脳髓にある」と云ふギリシヤの諺にある様に、婦人の生殖器と云ふものは非常に微妙鋭敏なもので、その健康不健康は直ぐ肉體にも精神にも現はれて来るものでありますから一度婦人病の魔の手に捕へられたら最後、手足を振ぎ取られたも同然で如何に美貌と才能を誇り、名譽と財産に恵まれてゐても、婦人病から受ける不運陰惨の前にはそれ等は全くなんの役にも立たないのであります。生殖器の健康、不健康が肉體や精神に直接影響のある最も判り易い例は月経であります。月経時には憂鬱になる人もあり、反對に狂燥的になる人もある。頭痛、眩暈、耳鳴りのする人もあれば、腰や下腹の疼痛に悩む人もある。女性の犯罪として最も多い萬引、放火、嬰兒殺し、情痴の殺人等が大抵月経時に發作的に行はれる事實を見ても判る様に、生理的の月経でさへこんな激しい影響があるので、すから、病的な婦人病が如何程致命的な結果を招くものであるかは、容易にお判りの筈です。されば、婦人病の治療は慎重に眞剣に考へて一日も早く治さなければならぬのであります。

月経痛

月経時には、百人中五六十人は色々の不快や痛みを感じるものですが、痛みが激しい爲めに働く事も出来ず月経の終る迄寝なくてはならぬ程の人が相當多いのです。之れは明かに月経痛の症状で、月経當日に痛む人が最も多く、月経の直ぐ前日迄に痛む人が之れに次いで多いのであります。

月経痛には下腹痛、腰痛が伴ふのは勿論ですが、その上、頭痛、片頭痛、眩暈、倦怠、嘔吐、下痢、便秘等が激しくなる人が甚だ多いのです。その原因に就いては、専門家にも種々の異説があつて定説はないのであります。大體、月経痛の起る原因の順序は、子宮の後傾、後屈、子宮の發育不全、卵巣喇叭管の炎症と云ふことになりす。

併し痛みの強さの程度から云ふと、最も激しく痛むのは子宮の炎症から起るもので、卵巣、喇叭管の炎症から起るものは其の次に位し、子宮發育不全から起るものは痛みも至つて軽い様であります。

月経痛には特殊療法は無く又自然に治癒する事も殆どないので、その原因を發見して手術療法、理學的療法、藥物療法等を適宜に行ふのであります。患者の苦痛を早く除くには如何しても藥物を使つて對症的に疼痛を鎮めるより外に無いのであります。

特に、炎症が原因となつてゐるものは、炎症が退いて終ふ迄は手術をすると反つて悪い結果を見ますから、先づ對症的に痛みを止めると同時に、炎症を治療する作用ある藥物で、原因的療法をするのが最も近道であります。之れを捨て、置くと炎症が増進して、一生この苦痛に悩まされますから、月經時以外には何んの苦痛もないからと云つて、決して捨て、おかすに一日も早く治療を加へなければならぬのであります。

不妊症は婦人病につきもの

昔は「子なき婦は去る」と云つて婦人七去の中の條件の一つとされ、「石女」と云ふ様な一種の侮蔑的な言葉で呼んだのであります。

如何にも婦人の人格を無視した言葉であります。血統を重んずる我國の家族制度から見ても、自分の子孫を遺すと云ふ生物の本能的な要求から見ても、子孫がないと云ふ事は致命的缺點家の恥辱で、人生の最大不幸の一つである事は誰れでも承知の事です。小供のない家庭の淋しさ、頼る子なき老境の寂しさは恐らく此の地上で最も大きな悲劇でせう。

では、婦人病には何故不妊症が起つて小供が生れないか、これは仲々複雑な問題であります。判り易い様に簡約して申し上げます。

健康な婦人の腔内は、腔の自淨作用を行ふ適度の生理的な酸度であるから精蟲は何んの害も受けず子宮内に進入します。子宮内は又精蟲の活動を助けるアルカリ性でありますから、精蟲は活潑に泳ぎ着いて女性の卵と結合して此處で受胎即ち妊娠が起るのであります。

妊娠の出来ない理由

處が、婦人病患者の子宮も卵巣も炎症から起る酸度等のため精蟲の活動を止めるどころか、精蟲を殺して了ふ様な云はゞ危険な状態になつてゐますから、如何に人工妊娠法を行つた處で、如何に活潑な精蟲があつた所で、絶対妊娠は出来ないであります。特に不妊症が最も多いのは喇叭管（卵巣から出た卵が子宮へ行くに通る管）の炎症で、靴の紐程の管の中に空いてゐる針位の細さの穴が、炎症の爲めに塞がり癒着して卵子が子宮へ通る事も出来ず、精蟲が喇叭管を逆上つて卵子と出合ふ事も出来ないので絶対妊娠は出来ないのであります。

そして、喇叭管炎は大低子宮内膜炎が昇つて起るものですが、子宮内膜炎があると、折角受胎した卵

も其處へ宿る事が出来ないので、折角受胎し乍らも外へ排出されて仕舞ふ。此の原因から知らぬ間に流産してゐる場合が仲々多いのであります。

不妊症は治る

故に、不妊症の人は先づ内生殖器の炎症を治療して、酸度が生理的になり、精蟲を充分活動させて卵子を受胎させる事が出来る様、又受胎した卵子が子宮内膜に宿る事の出来る様な普通の状態にすればいいやでも妊娠するもので、炎症は治つたが妊娠しない様な場合には、子宮の位置が異常であるとか他に原因があるか、夫の方に欠陥があるのでそれからその方の手當を要します。

併し炎症も酷くならぬ内、早ければ早い程治療も早いのであります。手遅れとなつたものでも決して絶望せず、最善の治療を氣永に施せば、永年の思ひを達して妊娠の喜びを得た例は随分多いのであります。婦人病の治療をせずに妊娠を望むのは、種子を蒔かずに花を求むると同様、全く出来ぬ相談である事を呉々も記憶して頂き度いのです。

婦人病の治療は斯うして手遅れになる

婦人病は治り難い、不治の病であると考へてゐますが、之れは飛んでもない誤りで斯様に云はれる原因を探ねて見ると、結局患者自身の見識不足から起る事で、第一に病氣を自覺するのが遅れる事、第二に羞恥と云ふ婦人の鋭い感情から治療を進んで爲ないこと、第三に正當な治療法、治療劑を撰む事の鑑識力がない事、以上の三つに盡きる様であります。

氣のつかぬ婦人病の初め

婦人病の極初期は心持帯下が増したかなと思ふ位で、別に身體に異常もなく、時々眩暈がしたり、頭痛、頭重、耳鳴り、逆上等が来る程度でありますから、自身氣にも懸けずに見逃し勝ちであります。此の時期こそ、病源が根を下して次第に毒牙を揮ふ準備行動をしてゐる危機であります。

此の時期は大抵自覺する苦痛が輕いので治療する氣にはなれず、帯下の不快が日増しに募つて來ても猶身體の故障を痛切には感じないため、傳染性の病氣とか、胃腸の病氣の様に直ぐ醫師に罹るとか薬を使用する様なせつばつまつた氣持が起らないので捨て、おく。其の間に病狀は進行して、黄色、茶褐色、綠色、膿色、血塊狀の下り物が腐つた魚の腸の様な悪臭を伴つて下りて來ます。衣類には絶えず汚れがつく、帯下の刺戟で外陰部、大腿が爛れ、癢痒、痛痒、疼痛が激しくなると不眠症が極端に亢じて來ま

す。下腹部は緊満する張り痛みがあり、腰部から大腿へかけて針で刺す様な牽引性疼痛が走ります。腰
下肢は氷の様に冷たく、頭は重く、肩こり、憂鬱症、悪感、逆上、眩暈、耳鳴り、不眠症は益々激しく
なつて、婦人病特有の苦しい堪へ難い病状が夜晝となく襲つて來ます。

「血の道は女につきもの」ではない

病状が此處へ來る迄治療を加へず放棄しておく人は頗る多いのであります。古から「血の道は女につ
きもの」だといふ非科學的な考へが大抵の人の頭にこびりついてゐるので、婦人科醫の眼から見ればよ
くも此處迄捨てゝおいたものだと思ふ様な症状であつても、患者自身は治療をし様ともしない。その處
に乗じて病勢はドン／＼悪化進行する段どりになるのであります。

何故羞かしがるのてせう

次に婦人の鋭い羞恥心即ち恥かしいと云ふ感情の爲めに、婦人病である事を人に打明ける事も出來な
ければ、況して醫者の診察を受ける事が出來ない。死んでも局部なんか醫師に見せるのは嫌だと云ふ氣
持ちに負けて、周囲の人にも氣兼ねし適當の時期に適當の治療を加へない、特に經驗のない處女や若妻

はそれが甚だしく、病勢は進む所迄進み二進も三進も動けなくなる場合が殊に多い様であります。

斯様な羞恥心は感情に鋭い婦人にとつては尤もな事でありますが、醫者に局部を見せるのは死ぬより
も辛く、周囲の人に病氣を打明けるのは白晝赤裸を人に見せるより恥かしいと云ふ氣持ちには一應は同
感が出來ますが、悪く云へば最も舊式な道德觀の履き違へで、此の點もつと冷静に科學的に考へなけ
ればならないのですが、女性特有の氣持ちで然も女大學式に育てられた永い間の根強い羞恥心は今直ぐ
に除く事は困難であります。

女性 は 弱いもの

そこで、病氣が酷くなるのを知り乍ら獨りくよく／＼して、立つても寝てもゐられぬ焦燥を感じてゐる
患者の氣持ちにつけ込み、其の弱點につけ入る様な可怪しい治療法、加持、祈禱の類から、民間の藥等
は何日の日何處にも鶴の目鷹の目で巧言美辭の網を張つてゐますから、相當思慮ある年配の主婦でも、
特に世慣れぬ羞恥心の多い若妻、處女は何んの批判も考へもなく、只婦人病が自宅で秘密に治療が出來
ると云ふ思ふ壺に嵌つて行く結果はどうであります。結局は治療の時期を失つた上に足掻きのつかぬ
泥沼へのめり込むのが落着であります。斯様な種類の可怪しい療法や藥劑を唯一の頼みとして明日は

明日はと果敢ない希望をかけてゐる間に病根は益々深く延蔓り、肉體は蝕ばまれ、魂は碎かれるに委し自分で自分の墓穴を掘るにも等しい悲境に陥る患者が、到る處に不遇を叩つてゐるのは實に意外に思ふのであります。

以上の如く、婦人病の治療が困難である原因は、患者自身にある、とさへ云へるのでありますから此の禍根を根絶して婦人病の不幸、不遇から早く脱れて失つた幸福を呼び戻すにはどうしても、羞恥心を無視して醫師の治療を受けるか、學理的に説明されてゐる權威ある治療剤を撰んで使用するかして、根本的治療を眞剣に行ふより外にないのであります。

帯下の色と悪臭に注意

健康な帯下

一口に婦人病と云つてもその原因場所種々の症状がありますが、是等に必ず伴ふものは帯下の分量とその色の變化であります。

帯下は子宮頸管、膣から分泌される粘稠透明な液で柔かな膣内は此液で適當に潤ひ、膣内を生理的酸

度に保つデーデルライン氏桿菌と云ふ有益細菌を旺んに活動させて、外部から侵入する有害菌を殺す膣の自浄作用を営み、膣内を安全に守つてゐるのであります。帯下には斯様な大切な作用がありますから健康婦人にも必ずあります。健康な生理的帯下は硝子の様に透明で色も無く悪臭も無く、親指と人示指につけて摩擦するとサラ／＼に乾いて了ふのが特長で、その量は少く膣外に流れ出る様な事はありませぬ。

併し月経前後とか、過度の運動、強い精神感動の後とか、或は性欲亢進時には多少量を増しますが、それも一時的で少しの不快感もなく、熱病とか風邪を引くと帯下には多少乳白色の混濁を見ますが熱がさがれば自然色もなくなる、之れが生理的帯下の特長であります。

病的の白帯下

それが、ある原因から（廿二頁参照）内部に炎症が起ると、極く初期には多少乳白色の混濁を見る程度ですが、炎症が進行して膣から子宮、子宮から喇叭管、卵巣へ波及すると、帯下には色々の色が附いて來ます。

大抵、白色、黄色、綠色、血色を色々に混ぜ合せた色がつくので、米の磨汁や牛乳のドロリとした様

なもの、帯黄白色、膿様のもの、緑色褐色のもの、以上のものに血の混交したもの、血塊様のもの等があります。又之れ等には魚の腸の腐つた様な不快な悪臭が必ず伴ふものでもあります。血の混るものは炎症の傷から出る血、血塊の降りるのは子宮の筋層深部を犯してゐる重症であります。細菌性のもは多く膿色で、淋毒性のもは緑色や膿色をしてゐますが、重症軽症によつても炎症の場所によつても種々に違つた色がつくものですから、乳白色であるから心配はないなどと油断すると危険な事になりますから、帯下の異状を發見したら手早く治療を加へなければなりません。帯下の多い順序は大體、子宮頸管カタル、内膜炎(實質炎)、喇叭管炎、子宮後屈、子宮周圍炎、子宮痛、子宮筋腫、肉腫、悪性脈絡膜上皮腫等であります。

婦人病に起る諸徴候

こらへ切れぬ下腹痛、腰痛

帯下の異常につれて起る痛みは下腹部と腰の痛み、大腿の内側へかけて感ずる堪え難い牽引性痛が主であります。病氣が重くても痛みのそれ程でもないものもあり、痛みが劇しくても病氣がそれ程でもない

のもあれば痛みは軽いが壓すと初めて痛みを感ずるものや、じつとしてゐてもさしこみ痛みのあるもの等痛み方には色々種類があります。下腹部は非常に不愉快に張る緊満感があつて之れには疼痛、鈍痛が伴ひます。臍下の真中が痛むのは子宮の炎症、その左右が痛むのは卵巣か喇叭管の炎症ですが、炎症が激しくなると何の部分が悪くても下腹部全體に疼痛があります。

下腹部の疼痛は症状が重くなるに連れて線香花火の様な放散性になり、腰痛、薦痛となつて下腹部から腰部、大腿の内側へかけて、特有の牽引性疼痛となり、歩行が出来なくなつたり、床についてゐる傍を人が歩むと疼痛が響いて来る程激烈になつて來ます。

冷え症

冷え症は百人の中先づ九十七八人迄にある生理的の欠陥で、生れつきなど云ふ事は先づ稀です。貧血、胃腸病、栄養不良、長い病氣の後等には、體が大變冷えるものですが、さう云ふ原因からでなく特に腰が痛む様に冷える、手足が氷の様に冷たく、床に入つても終夜冷えて眠れないと云ふのは、廣い意味の婦人病が原因なのです。特に内部に炎症があつて白帯下の異常、月經異常がある時には明かにさうです。

又かう云ふ時にも腰冷えが激しく起ります。それは、家庭での仕事、勝手洗濯等の中腰や前こまみの姿勢、長い時間坐つてゐる裁縫や手藝等、それから、職業婦人の職場の姿勢、立ち続け、椅子に腰かけ続け等の姿勢、かう云ふ姿勢が毎日続くと、骨盤内に鬱血した血の滞りから（廿二頁参照）冷え症が起り又これが子宮後屈、子宮後傾の原因となります。

指の先きを糸でクル／＼捲くと、少時して紫色になり冷めたくなつてしびれて來ます。それと同じ様な理窟で、骨盤内の子宮やその附屬器に鬱血が起るのです。

冷えれば暖める、熱ければ冷やすと云ふやり方は、醫學の進まぬ時代の考へですから、こんな事を何時迄も繰返してゐる間に、病氣の芯が大きくなつて、立派な婦人病になつて惱み続ける方が多いのです。だから、冷え症の原因である子宮その他の炎症や鬱血を根本から取り除くのが最善の方法である事は醫學的に明かに證明されてゐます。

冷え症には白帶下を始め、腰痛み、逆上、頭重頭痛、耳鳴、肩凝り、頑固な便秘等が伴つて、顔色わるく肌の色澤がなくなつて來ますが、一番辛いのは先づ妊娠が出來ない事です。冷える腰の方で、恐らく子供を産んだ方はないでせう。

冷え症は婦人病の一つの症状ですから、女は冷える者などと間違つた考へに虜はれずに、病治療法を

施さねばなりません。

以上の外に、悪感、戦慄、逆上等の不愉快極る症候があり日常絶へず眩暈、頭痛、頭重、片頭痛、耳鳴り、肩の凝り、憂鬱症、ヒステリーの發作、頑固な便秘等の暗澹とした全身障害に日夜悩まされ、苦しめられて、榮養は衰へ顔色は蒼黒くなつて婦人病患者特有の相貌となるのであります。

女性美を蝕む婦人病

—女性ホルモンの神祕—

女性特有の艶のある聲、肌の色澤、光澤、緊張、脂肪の美しさをもつ肉體美と女性の優しい感情等は卵巢ホルモンの活動によつて生ずるもので、言ひ換へれば無病健康な内生殖器から明朗鮮美な女性美が輝やき出て來るものであります。

處が、婦人病になると卵巢ホルモンの生成分泌が弱り衰へる爲、肌は荒れて色澤がなくなり、動く弛れ小皺が殖へて年よりもつと老け、顔色は土色になり、どこから見ても生氣のない寒々とした感じを與へ、脱毛、脂膏が増加し毛髮の光澤が失せまます。特に眼の周圍に出來る薄黒い輪は一見して婦人病である事が判ります。

美しさがなくなり女性の魅力が失せるのは女性にとつては一番の痛手で、泣くに泣かれぬ悲しみですが、之れを救ふ手は只一つ子宮卵巣の病毒病熱を取り除く事、言ひ換ふれば婦人病を根本から治す事は勿論ですが、その上に、病氣の爲に衰へて行く卵巣ホルモンの不足を充分に補ひ、凋んで行く女性美を盛り返へす爲、單位の高い卵巣ホルモンを特殊の方法で子宮から卵巣へ入れる事です。すると、子宮卵巣はホルモンの爲に活動を刺戟されて美を保つと共に、自然癒る作用が強くなつて、薬力と相俟つて治療が頗る早く出来るのです。

之れは治療として最も進歩したものです。處で、女性ホルモンの効果は子宮卵巣の發育の悪いものを不思議な程よくする微妙な作用があるので、年頃になつても月經の無い人、月經困難や不順、月經痛、月經過少、或は不妊症や性慾性感のない人、四十四五の月經閉止期に起る腰痛み、冷え症、憂鬱症、耳鳴等に用ひると、頗るよく効くので生殖機能の故障の治療には是以外に方法はないのであります。

従来女性ホルモンは皮下注射一點張りでしたが、近頃では女性ホルモンを直接子宮腔に注射する方法も出来てゐますが、最近、それに劣らぬ効果をあげる最も新しい方法が發明され、それを治療薬と一處に局所に使用すれば素晴らしい効果がある事が證明されました。この兩面治療をすると、肌は美しく張り女性特有の色澤が出て、美しい聲、眸の輝やかに、女性美が溢れ出る様になる上に、婦人病が病芯から治つて了ふのであります。

ヒステリー

ヒステリーと婦人病は離る可からざるもので、ヒステリーと云ふ言葉はギリシヤ語のヒステレロ(子宮と云ふ意味)から出てゐるので、つまり子宮から起る病氣を意味するのであります。ヒステリーは、患者自身には勿論周囲の人の不快と心配は非常なもので、起居動作が如何にも不活潑相態は陰險で態度が何んとなくイラ／＼して嫉妬深くなる。思慮分別、理解力が乏しくなつて殆んど常識がなくなり、手に負へぬ亂暴、茶碗を投げたり硝子を破壊する、或は着物を切り崩したり時には剃刀を振り廻して周囲の人を蒼くさせる、と云ふ事が日常生活に不斷に起るのでありますから、周囲との折合ひがつき難く、眼もあてられぬ家庭悲劇を捲き起すのであります。



婦人病の原因

斯様な局所、全身症状を起す婦人病の原因は、婦人の内生殖器たる子宮、卵巣、喇叭管（卵巣から子宮へ卵を送る管で輸卵管とも云ふ）及び骨盤腹膜、骨盤結締織等に、種々の原因から起る炎症であります。

其の原因を語る前に、婦人の生殖器はその構造上からも、場所からも炎症の起り易い缺點がある事を充分頭に刻んで置いて頂きたいのです。

『女性の生殖器は細菌の培養基である』と云はれる程、婦人にとつては、云はゞ危険な地帯で、表面は傷つき易い柔い粘膜で被はれ、粘膜は粘液で潤潤つてゐるので細菌の繁殖にはもつて來いであります。此處へ一滴の細菌群の飛沫がつけば

一夜にして数億に繁殖して病原を撒き散らすもので、大便中にゐる大腸菌等は、よく肛門から外陰部に移つて、炎症を起し上昇して子宮内膜炎を起す事があります。女兒の腫炎などは大抵之れが原因であります。

此の様な危険地帯には一寸した原因でも直ぐ炎症が起り易いのでありますから、婦人病は女性なら一生に一度は罹る病氣であると云つて誤りない程です。そして其原因としては大體次の様に分類が出来ます。

一 細菌から起る炎症

細菌から起るものでは大部分が淋菌で、大腸菌（大便中にゐる）、葡萄球菌、連鎖球菌、結核菌等で、稀にはチフテリ菌、肺炎双球菌から起る事もありますが、淋毒性のものは病毒が最も激しいのであります。

二 細菌以外の原因から起る炎症（カタル性）

(A) 局所の刺戟が原因となる場合

(1) 最も多いのは月経時の手當の不注意から、脱脂綿や紙を腔内に深く挿入したまゝ忘れたり取出した後の残片が腐敗して起るもの。處女の帯下は大部分之れが原因である。

- (2) 自漬の目的で使用する器具の刺戟や自漬其物の刺戟で起る。或は過度の性交。
- (3) 膣挿入薬が膣内で溶けずに残つてゐたり、粘土や草根木皮の細粉を固めた刺戟性の膣挿入薬の刺戟とそれに附着した分泌物、汚物の刺戟で糜爛を起したり膣に裂傷の出来たのが原因で起る。
- (4) 避妊の目的で使用するベツサリウム、子宮ピン或は薬剤等の刺戟で起る。
- (5) 蛔蟲、蟯蟲等の膣内寄生蟲が膣に潜入したのが原因となる。
- (6) 膣内に下垂する子宮息肉（ポリープ）外陰部或は膣の腫瘍が原因となる。
- (B) 膣内に旋毛虫（トリコモナス）が増加して起る炎症

三 體質から起るもの

- (1) 無力性體質と云つて全身の抵抗力が弱く總ての内臓器管の弱い人。
- (2) 發育不全で貧血性の人。
- (3) 小兒性體質と云つて内生殖器（子宮卵巣）の發育不全の人。
- (4) 肥満症、糖尿病の人。
- (5) 其他頑固な便秘或は反對に原因不明の下痢。風邪、熱性病等につれて炎症が起り、その儘慢性経過をとる場合も多いのであります。

斯様に體質的に來るものは、細菌に對する抵抗力も無い爲、既婚者ならば體質的原因がある上に更に細菌や夫婦生活の刺戟が原因で、一層婦人病を増悪したり或は病氣の發生を助け易いのです。

(注意) 體質的に來る婦人病の治療は六ヶ敷云へば體質その物の改造からかゝるのが至當であるにしても、事實上之れを實現する事は不可能ですから、先づ日常の食物に注意して栄養をよくし、適當の局所治療法を施す可きであります。一時のがれの薬で胃腸を害ふ如き内服薬は必ず避けることです。

四 思ひもよらぬ事から

職業婦人、坐業をする女性

以上が大体婦人病の原因であります。此處で見脱す事の出来ない原因としては、前の冷え症の處（十三頁参照）に記した通りの、こんな事が、と云ふ様な日常生活の習慣です。これは非常に多いのですが注意しない人の多いのは驚く程です。必ず此の點に最大の注意を拂つて頂かなくてはなりません。

その他、服装があけつばなしで、下半身が冷え勝ちな事、便所が北向きの事、出産後餘り早く起きて働いたり、不攝生をしたり、分娩時に不潔な手當をしたりする様な事から、婦人病の起る事も、非常に多いのです。

婦人病の症状

急性子宮内膜炎

要點 淋菌が原因となる場合が多い。(十九頁一の項参照)
急性は子宮粘膜に局限される場合もあるが同時に子宮筋層を貫し子宮内膜實質炎となる。
症状 發熱、下腹痛、全身に倦怠感があり子宮部に疼痛がある。帯下は多量になり汚穢褐色、膿黄色で悪臭がある。往々血液を交へる事がある。

慢性子宮内膜炎

要點 急性から慢性に移行する場合が多いが、始めから輕微な症状で慢性に移るものもある。婦人病中最も多いもので婦人病と云へば子宮内膜炎の別の名と云はれる程である。
症状 骨盤深部に不快を感じ、壓重感がある。月經前に増悪し尿意頻數、便秘がある。月經は長く強く不正の出血があるので、貧血になる事が多い。月經時には下腹痛、腰痛、薦骨痛を覚え月經と月經の間に中間痛があつて、大腿内側の牽引痛、腰痛、下肢の冷感がある。帯下は頸管カタル程多量ではないが、月經前後や勞働後に急に増加し色

は白色乳汁様である。全身症状としては、頭痛、片頭痛、半顔面痛、頭重等が著るしく、ヒステリーを起す場合多く妊娠は殆んどしないが稀に受胎しても流産を起す。

子宮頸管カタル

要點 子宮内膜炎と同時に起る事が多い。

症状 子宮頸管部に燒ける様な灼熱感があり、そこへ一寸指を觸れても出血するから、性交後出血を起し易い。帯下は濃厚な粘液性で他の婦人病の時よりも頗る多量に出る。始めは粘稠透明であるが次第に濁濁り黄色を帯て往々血液を混ずる。

下腹部、腰部、薦骨部に一種不快な壓重感があつて牽引性疼痛と其他の神経痛症状を呈する。

子宮後屈症

要點 後屈症は頗る多い疾患で、先天的にもあるが、多くは後天的に來るもので、産後には殊に發生し易く、職業婦人にも多い事が發見されてゐる。(廿一頁の四項参照)

後屈症には、癒着性と移動性があるが障害を起すものは大抵癒着性のものである。

症状 白帯下が多い、月經過多、下肢の倦怠、放散性疼痛、蟻走感がある。一般に下腹部に不快の感と疼痛がある

肩胛骨、頸部、腰部に疼痛があり、月経前或は月経中に著しい月経痛を起す。
全身症状は腰冷え、悪心、嘔吐、頭痛、心悸亢進、倦怠感、神経衰弱、ヒステリー、憂鬱症が起る。

子宮實質炎

要點 子宮内膜炎があれば實質炎を伴ふもので、内膜炎も實質炎も同一のものであるが、病氣が主として粘膜にあれば内膜炎、筋肉層にあれば實質炎と云はれてゐる。
急性は産褥時に起る事が多い。

症状 子宮は平等に増大して脹すと疼痛がある。月経は過多となり、不正出血、月経困難がある。白帯下は白色乳汁様で多量を排出し、食慾不振、悪心、嘔吐を覚え下腹、腰部に不快な感或は疼痛を覚え疼痛は始め労働時に限られてゐるが、症状が悪化するると持続性となり、便秘、尿意頻數を訴へる。

子宮周圍炎

要點 月経時の感冒、或は不潔生、頑固な便秘、特に産褥後に發する事が多い。子宮を包む結締織の炎症で、連鎖球菌が原因となる場合が最も多し。

症状 急性は傳染後數日ならずして腹膜を犯し、腹部の膨脹、疼痛、嘔吐等を伴ひ、體温は急激に上昇する。

慢性は、下腹部側に放射性疼痛ある時は、臥床しなければ堪えられない程で、白帯下は多量になつて白色乳汁様を呈する。

喇叭管炎、卵巢炎

要點 主として淋菌が入つて起るが、流産後、産褥時の不潔な處置からも起る。

症状 下腹部の壓迫痛が主で急性には發熱が伴ふ。左右何れかに偏してゐる時は其側に限られた症状がある。喇叭管内が化膿した時は、喇叭管膿腫と稱し、周圍臓器(腸、子宮等)に癒着するのが常で、此の場合には腰痛も甚しく、月経困難、月経過多、便秘等が伴ふ。喇叭管には多く卵巢炎が併發する。

子宮出血

思春期以前に又月経閉止後に子宮に起る出血と、月経時以外に不意の出血ある場合は異常な子宮出血である。大量の出血がある時もあり、一時性もあり持続性もあつて一定してゐない。患者は貧血が強度で衰弱が甚だしい。子宮表面の出血でなく、深部の破壊又は病的變化で起り、原因は、癌、筋腫、子宮内膜炎等である。

腔炎

要點 内膜炎の帯下の刺戟、感冒、陰部の不潔、粗雑な薬剤使用。(二十頁参照)

症 狀 膣内は灼熱感、熱感、疼痛、乳汁様、膿様の帯下を多量に排出し時々血液を混する。急性は重症な内生殖器炎症と同時に起る。帯下は血が混る。慢性は灼熱感消失し、多量に帯下が下りる。色は白色乳汁様である。

長 血

白帯下に對する赤帯下で、白帯下に血液を混じたものを總稱し、淡紅色、濃赤色等のものがある。何れも内生殖器の炎症部の劇しい糜爛から出血する血液が混じつたものである。

陰 門 惡 臭

要 點 何等病的原因なき時も外陰部を不潔にする時は、分泌物が腐敗、分解して惡臭を發する。帯下が多量な時は帯下が同様に腐敗分解して甚だしい惡臭を發する。最も人に嫌はれるものである。

陰 門 癢 痒 症

神経性のものであるが帯下の刺戟や惡い挿込薬の刺戟で起る場合が多く、患者は特に就寢後身體が温まると激しい痒痒を感じて、堪えられぬ痒痒の爲めに不眠症、神経衰弱を起し、強くなれば自殺を敢行する者もある。時處を

かまはず痒くなるので、婦人として最も堪え難い羞恥を感じるものである。

膣 部 糜 爛、膣 潰 瘍

要 點 膣糜爛は子宮膣部の糜爛で子宮頸管カタルを併發してゐる。子宮膣部は發赤して手指をふれても出血する。帯下は膿性血性である。膣潰瘍は病原菌(淋菌等)が原因となるか又は機械的刺戟や粗悪な挿入薬が原因となる場合も多い。(十九、二十頁参照) 糜爛、潰瘍、何れも腫脹して灼熱痛があり、歩行困難になる人が多い。

婦 人 病 と 手 術

婦人病と手術に就いては多くの患者は殆んど理解してゐない様であります。婦人病は手術をしなければならぬと考へるは最も舊式な見方で、現在では、已むを得ざる場合の他は出来るだけ手術をせず、所謂保存療法を行つて好結果を得たいと云ふのが治療上の原則とされてゐます。

斯様に出来るだけ手術をせず治療すると云ふ事は頗る重要な事で、特に手術の苦痛、手術後の安静日數、手術料入院料と精神的肉體的經濟的に多大の負擔、苦痛を感じる患者にとつては、手術をせずに治療が出来るなら、それに越した幸福はないのであります。



手術の中で最も多く行はれるのは子宮内膜の掻爬であり、此の手術は嚴密な適應の下に行へば成績甚だ良好ですが、子宮周囲に炎症がある場合殊に淋毒性の時に手術をすると數ヶ月から二三年と云ふ久しき病床に苦しむ事があります。と云ふ様に、種々の條件を顧慮すれば、内膜搔爬を行ふ可き適應症は比較的少ないと云はれます。又子宮後屈や喇叭管腫を手術するにしても、その結果が充分良いと豫想の出来る時には手術を行ふので効果の疑はしい時には保存療法を行つて手術は行はぬ方が安全であります。だから手術を過信するのも、無視するのも不合理で、適當の時期に充分見込みのつく手術ならば行ふが良いのです。手術から起る種々の苦痛を受けずに治療が

出来れば之れに越した事はない。それも治療法を誤まらなければ病氣の種類によつては立派に希望を達する事が出来る程、現在の治療醫學は進歩してゐるので、婦人病は手術でなければなどと云ふ考へを全然捨て、最適最新の治療法を選んでその目的を達するのが最も賢明であります。

婦人病と性の問題

妻が婦人病治療中夫との性的交渉は如何するかと云ふ事は頗る重要な問題でありますが、結局夫たる人が、妻に對する同情と病氣に對する理解に俟つより外にないのであります。

婦人病は子宮卵巣の炎症でありますから、性交の様に内部外部共に充血を起す行爲は出来るなら全然行はないのが病氣の爲めにはよいのであります。

性交後に出血が止まらないとか、事後數日も痛みがとれないとか云ふ事はよくあるので、それは病氣を悪くするばかりでなく、新らしく病菌を植え込んで病氣の上ぬりをする様な事になりますから、お互に自重して出来るなら相當の期間絶対禁慾に越したものはないので、先づそれは出来ない事ですから、交渉時に苦痛を感じない、交渉後にもさして痛みもないと云ふ様な調子なら適當に行つてもさして影響はない様です。事後出血があるとか、痛みが激しい様な時は全然交渉は危険です。結局夫たる

人の自尊心、自尊心と妻に對する同情によつて、目前の性慾に溺れる事なく、妻をして早く充分に治療せしむる時間を興ふれば、却つて早く健康になつて夫婦愛の濃かさを味ふ事が出来るのであります。

昔からある婦人薬

婦人病學のなかつた時代には、その原因も判らず内部の症状が判らない爲め、種々の煎薬が使用されてゐました。中でもサフランは婦人病の高貴薬で、人蔘と共に薬の大關であつたのであります。併し、薬理學が發達してサフランの性質が判つて見ると、健胃、通經、鎮靜の作用があるばかりで、婦人科的に効果があるとすれば鎮靜作用で逆上を下げ、幾分月經を通ずる位のもので、現在ではサフランの中毒性まで判つてゐるので、薬として用ふるより藥劑に光澤を附けたり香をつけたりする加工料とし用ひられるに過ぎないのであります。

高貴薬サフランにして然り、他の和漢薬を錠劑としたり、振出しとして用ふるものゝ効果と云へば、それは生殖器の炎症に直接の治療作用はなく、神經を鎮める事と血液の循環をよくして多少は身體を温める程度の効果は有ますが、婦人病の性質から云ふとかう云ふ性質の藥位では根本の治療は出来ないでありますから、醫師に罹つても健胃劑とか鎮靜劑は使つてもさう云ふ種類の婦人薬を使用致しま

せんが、得體の知れぬ坐薬等よりはすつと安全とは云ふものゝ、之ればかりにたよる事はいけません。

素人に有害な洗滌

洗滌薬は普通に、リゾール、カメレオン液（過マンガン酸苛里）硼酸等を使用しますが、洗滌液の濃度の濃度が適當でないと却つて有害であり、腔内の構造を知らぬ素人はよく嚙管の先端で腔壁を傷つける危険があるので、素人の洗滌は害あつて益なしです。現在の婦人病治療學から云ふと、前にも申し通り腔の生理的自淨作用を營むデラライン氏桿菌をも洗ひ出して終ふので、却つて治療を遅らせると云ふ説が認められた爲、近頃は洗滌をしない醫師も多くなりました。

坐浴（腰湯）

「女の腰には火を埋げよ」と云ふのが、婦人病學がなかつた昔からの婦人の衛生法であつたのです。婦人の下半身に腰は、生理的に冷え易いやうに出来てゐるので、之れを暖めるのは現在の治療醫學から云つても合理的であります。厚い蒲團で腰をまる／＼と捲いたり、下腹の皮膚に火傷の痕の附く程、懷爐で暖ためてゐるのは寧ろ滑稽ですが、腰、下腹を暖める事は婦人の生理上甚だ有効であります。

これは治療法とは云へないもので、又、婦人病學のなかつた時代に、それと同じ意味で用ひられた腰湯（鹽湯、干葉湯、その他草根木皮の藥湯）も之れと同様で、是等（これら）で治るものと思ふと飛んだ間違ひです。腰湯は外陰部を清潔にして爛れを防ぎ内部の鬱血を散らして滲出物を吸収させる作用はありますが、少し病氣の進んだものや悪性の病菌性（びんせいのびんけいせい）のものには、爛れを防いで局部を清潔にする程度のもので、他所治療法と併せ行ふなら多少治療の助けにもなりますが、家庭で隙間風（ひま）の入る様な所で不用心にやると風邪を引き易く、風邪は婦人病には大の禁物（きんぶつ）ですから、家庭では局部を清拭（せいせき）とる程度に止め、不完全な坐浴（ざよく）をする位なら全身浴即ち入浴した方が最も安全有効（あんぜんゆうこう）であります。

局所薬が最も良い理由

前にも申しした様に、婦人病は子宮、卵巣、喇叭管等に起つた炎症で、其の所が糜爛（めいらん）れてゐるのであります。炎症とは、その場所の細胞が、微菌（びいきん）その他の原因で形を崩され弱くなつて、熱と滲出物（しんしゅつぶつ）を出す現象を言ふので、例へば火傷は炎症であります。

火傷をしたら患部へ直接薬をつけて痛を止め炎症を和げる手當をする。風邪を引いて鼻の炎症で鼻が塞つたり、咽喉に炎症を起して腫れて痛む時には、吸入をかけたリ薬を塗布して炎症の手當をするの

が一番よいのです。風邪薬だけで發熱は退いても咽喉の炎症が治らず、永い間咽喉が痛んで困る様な事はよくあるのです。

斯様に炎症といふものには、皮膚でも粘膜でも直接の處置が最も効果がある。婦人病でも適當の局所薬を使用するのが治療の原則になつてゐますが、婦人病に起る炎症は頗る複雑（ひんざん）してゐますから、之れを合理的に治療するのは仲々六ヶ敷い事で、消炎だけでも、殺菌だけでも充分ではない。病理的に見るとどうしてもその上に鎮痛、收斂、消毒等の諸作用を巧みに利用して局所へ直接に手當をしなければならぬと云ふのが、現在婦人病學から割り出された云はゞ鐵則（てつそく）であります。

ですから病氣の性質、薬の作用を知れば自ら薬は如何なるものが最も適當であるかと判つて來るので古くからある内服薬を飲んで婦人病を治すといふ氣は起らなくなるのが當然であります。

猶又局所へ直接治療を加へて一層都合のよい事は、腔の生理的構造が非常に薬を吸ひとる吸收到に富んでゐて、薬物を多量に容易く吸収させる事が出來るといふ治療上から云へば實に申し分のない性質があるのであります。

一體粘膜には物を吸ひとる吸収作用がありますが腔の粘膜には特に目立つてこの作用が強いので、面白い例としては、無垢な處女が一度異性に接すると精液が腔から吸収されて血液に反應を起すので處女

鑑別が出来ること云ふ事、或は又俗間で『夫婦仲がよいと子供がない』と云はれるのは、吸収された精液に對する一種の抗酵素の爲めに妊娠を阻まれるとも解釋がつくので何れも興味ある生理的事實です。

腔には斯様に不思議微妙な性質作用があるので、腔内に薬物を入れると腔壁から吸収されて、子宮、卵巣、喇叭管等の深部に薬効が届くのでありますから、此の性質を巧みに利用して、長く効く薬を一層吸収され易い性質にして使用すれば、婦人病の治療としては之れ以上有効な方法はないのであります。併し一方では、腔には斯様な鋭敏な作用があるだけに、一度薬剤の選擇を誤つて悪いものを使用すれば、其の結果はどうでせう。治る病氣も治らぬどころか一層病氣が痼じれるのがおちであります。

斯様な挿入薬はよくない

——外形は同様でも薬の成分や効果が違ふ——

大體治療醫學上で用ひられる腔挿入薬は、前に申した腔の吸ひとる吸収性を學理的に應用して治療効果を擧げると云ふのが目的ですが、一般には斯る根柢ある理由からでなく、只、使ひ易いと云ふ意味から使用されてゐるものが多く、現在市販されてゐる腔挿入薬、子宮座薬と云ふものを調べて見ますと、

洋薬流のもの、漢方流のもの、此の二つをつき混たもの等恐らくは百種以上もありませう。又それだけ粗悪なもの、無責任なもの、有害なものさへあるので、挿入薬を使つて帯下が多くなつた、外陰部が爛れた、腔が痛んで醫者に罹つても仲々癒らないと云ふ様な事を聞きますが、その罪は薬その物が不良であつた爲と見るのが當然であります。

帯下を吸ひ取るもの

例へば、粘土の粉末や草根木皮の細末を固めて、帯下を吸ひ取る丈けを目的とするものがあります。腔に入れると分泌物や汚物を吸ひ取るので腔内はカサ／＼に乾き帯下は外へ流れ出ない、流れ出ないから素人は帯下が止つたと考へる。實際は止つたのではなく、その球が帯下を吸ひ取る事が出来なくなる其自然腔外へ出て来る。それには膿とか分泌物が一杯ついてゐる。それを洗ひ洗ひして幾度も挿入すると云ふ様な少しでも衛生と云ふ事を考へる人なら聞いただけでも身震ひする様な不潔な手當をするものがあります。

斯様な種類のものには、その成分は勿論それに附着した汚物微菌の爲めに、腔内は益々糜爛れヒビの様な裂傷が出来たり、病毒を一層強めて症状を悪化する様になるのであります。

それを連続して使用すると、醫師でさへ手も出ぬ様な酷い糜爛れを惹起すもので、斯様な苦しみに悩む患者は非常に多い様であります。幾度も使用が出来ると云ふ様なつまらぬ事に眼が眩んで、結局は數百倍の治療費をかけても治らない様にこちれたら、その損失は誰が償つてくれるでせう。

陰部癢痒症や濕疹、痛痒を起すもの

又、薬の成分が不合理であつたり、作り方が不良なものがあります。

斯様なものの中には、腔内で溶解せずに四つも五つも連り合つて鉛棒の様になつて、子宮腔を刺戟するものもあれば、又腔外に流れ出て著物を汚したり、局部や大腿部を刺戟して陰部癢痒症や濕疹を起し、婦人として眞に堪え難い羞恥と苦痛を與へるものがあります。舊式な固めた黒い球には殊にそれが多い様です。

以上を總括して見ますと、局所挿入薬と稱するものには嚴密な意味から云つて理理的と云へるものは仲々見當らぬのであります。

斯様な不完全な薬劑を使用し乍ら、婦人病は不治である、難治である、と悲鳴を揚げる患者の多い現状を見ると、患者でなくとも實際、心臟が氷る様に思はれるのであります。

専門治療法の家庭化

素人も安全簡易に使える高級治療薬

最近の日本の醫學の進歩は素晴らしいもので、治療學も日に日に研究され進歩しつゝあります。今では世界でも指折りの醫學の國となつてゐますが、その日本に立派な婦人薬で然も素人にも安心して使える婦人科専門薬が一つもないと云ふ事は、實に申譯のない肩身の狭い話だつたのです。

そこで、日本醫學の眞價を發揮して世界に誇る様な婦人薬を、是が非でも完成し様と云ふ火の様な希望の下に、最新の學說の長を採り、専門博士の實驗意見を參酌し、不撓不屈の實驗を重ね、改善に改善に涙ぐましい研究努力の結果、遂に望み通りの高級婦人薬として、世界に誇るに足る二つとない三元性婦人科治療劑ワセトン球を見事に作り上げる事が出来たのであります。

この爲に婦人科専門醫は勿論、一般醫師の方々の治療上に及ぼす影響は大變なものであつて、現に大病院婦人科を筆頭に、全國有名病院醫院で使用されてゐるのであります。翻つて一般の婦人患者、醫者に罹るのを嫌ふ患者、家庭的の種々の事情から醫者に罹る機会と時間のない患者にとつては、安全に簡便容易に、進歩した治療が家庭で知らずの間に短かい日數で出来る上に、然も僅少の薬價で愉快に爲

し遂げられると云ふ、實に申分のない新時代の婦人薬として、華々しく登場したのでありますから、女性にとつては全く此の上もない幸福であります。

医科大学から發表された實驗報告

日本婦人學會熊本地方部會「會報」より

高級婦人薬ワセトン球を、婦人科専門醫の方々が使用された實驗例は數へ切れない程ありますが、手近しい例として医科大学の教授博士が實驗された「ワセトン球の治療實驗報告」を抜萃して見ませう。
 注意 (右の原本御希望の方は郵券三錢封入して巻末總代理店へ御申込み下さい)

帯下並ニ子宮腔部糜爛治療劑「ワセトン球」治驗

緒言 帯下ノ原因ガ婦人科的炎衝疾患ヲ始メ結核腎臓炎、糖尿病等慢性疾患、諸種高熱性疾患、内分泌(ホルモン)或ハ植物神經機能ノ失調ニヨルモノガアリ、サテハ薄弱性體質ニ因ルモノガアリ妊娠時ノモノガアリ之等全身性ト局所性トノ原因ガ複雑化シテ、ソ

デアル。即全治ニ至ラシメタ十五例中「ワセトン球」使用回数ハ最短六回デ、輕快ニ至ラシメタ十五例中早イノハ既ニ三回デ帯下ノ減少ヲ自覺シテ居ル。
 第一表 (詳細ナル各患者ノ病名、經過ヲ記載セルモ省略ス)

全快	全治	回数
4	0	3
4	0	4
1	0	5
0	1	6
0	1	7
0	1	10
0	1	11
0	1	12
0	1	17
0	1	20
0	1	22
0	1	23
0	1	24
0	1	25
0	1	26
0	1	29
0	1	30
0	1	32
0	1	55
0	1	80

全快	全治	回数
1	0	4
0	1	6
0	2	7
0	0	10
0	1	12
0	1	17
0	1	23
0	1	25
0	0	26
0	0	29
0	1	30

第三表ニ示シタノハ子宮腔部糜爛ニ對シテノ効果デアツテ、早イノハ六回デ全治ニ至ラシメテキル

病院で實驗した治療成績

前記の治驗例を一層判りよくする爲に一般病院で使用した實驗例を總括して見ますと、特に患者にと

つて喜ぶ可き事は、婦人病の特長である白帯下と下腹痛を治療する力が強い事で、

帯下を治療する作用が頗る早い

下腹痛に効く作用が早く優れてゐる

と云ふ二つの點は、専門家の立場からも充分満足されてゐます。即ち、患者が最も苦痛を感じ一日も早く脱れたいと願ふ二つの根點が、ワセトン球を使用すれば容易に樂になるので、多くの患者に嚴密に實驗した結果は次の如く良好率を示してゐます。

使用後 一週間に効果のあつたもの……………五十六% (五割六分)

使用後 二週間に効果のあつたもの……………四十四% (四割四分)

副作用と見る可きものなし

そして是れと同時に比較試驗した他の膾球の成績結果としては、三百二十四人の患者の内で分泌物(帶下)を増加し、或は増加する傾向があつたものが、十四人あつたのであります。此の膾球は相當信用ある有名な製劑であり乍ら、猶且斯様な副作用を容易にとる事は出来ない程膾球の製法は至極困難ですから、此の點から見てもワセトン球が如何に優秀であるかがよく判るのであります。

現在の臨床藥理學で

最も進歩した婦人藥

ワセトン球は何故効くか

從來の婦人藥とこんなに違つてゐます

斯様な良い治療効果が何故素人の手でも擧がるかと云ふと、ワセトン球一つでもつて、最も新しい醫學的の三種の治療法が一時に出来るからで、解り易く次ぎに記述致しませう。

一 病芯療法が出来る

この療法は子宮卵巣等の炎症、爛れをとり病熱病毒を除く療法で次の諸作用が協力して働き病芯をとるのです。

消炎作用

此の作用は、糜爛した腔、子宮、卵巣等の炎症に作用して粘膜組織の細胞の充血を去つて、出血の原因を去り、分泌物の滲出を弱めて行つて帯下の量と帯下の色を消失させる重要な作用であります

收斂制泌作用

これは糜爛した粘膜細胞を引き締めて内部の分泌物を排出し、血管を縮めて充血を去り（出血ある時は止血作用として働く）分泌物を減ずる作用であります。

殺菌作用

恐る可き淋毒菌を始めとして、炎症の原因となる葡萄球菌、連鎖球菌、大腸菌（十九頁を参照）等の有菌病菌を殺して菌毒を去り、病患部の延蔓を止めてその治癒を速め、消炎作用と協力して特に帯下の色（黄色、褐色、緑色等）を消失する作用であります。

鎮痛作用

此の作用は、患部の爛れから来る疼痛は云ふ迄も無く、炎症の毒に胃された下腹部、腰部の神経から起る疼痛を薬理作用で止めるので、子宮、卵巣の疼痛、腔の痛みが去り、内腿の牽引性疼痛が去るのであります。

防腐、防臭作用

卵巣、子宮、子宮頸管から分泌されて腔内に滯溜る帯下、汚物の腐敗を防ぎ、殺菌作用と協力して帯下の悪臭を防ぎ、腔から流れ出る帯下の刺激性を取り除いて股間、大腿の糜爛を防ぐ作用であります。

消毒作用

病毒菌から出る毒作用を防いで糜爛面の刺激を軽くし、分泌物、帯下の毒性を取り除く作用であります。その他、婦人病白帯下の爲に起る色々の不快を除く細かい諸作用に至る迄、何から何迄整つてゐて、一つとして足りない所のない理想と云ふ文字その通りであります。

此處で今迄にあつた婦人坐薬の事を考へて見ますと、醫師が使つてゐた従來の腔球と稱するものでも大抵殺菌力が、消炎力が收斂力かのどれか一つに偏つてゐる単一性薬劑である爲、病毒菌もゐるし痛みも爛れもあると云つた面倒な婦人病の治療と云ふ點から見れば完全なものとは云はれず、そして不便だつたものです。

単一殺菌性薬をカタル性炎症（病菌から起らぬもの）に使用しても効果は鈍く、病菌性炎症（例へば淋毒性の婦人病）のものに、殺菌力のないものを用ひても適切な効果が擧げられないのは當然です。醫師は實際を診察してその病因を知りそれに適する単一性劑を、時に應じ機に臨んで撰擇して使用するからよ

いものゝ、その判別が全く出来ない素人考へで無鐵砲に單一性のものを使用するのは全く無益であります。

處がワセトン球は、治療作用の開口も廣いし奥行きも深いので、殺菌力を目的とする場合にも、收斂を目的とする場合にも、疼痛を鎮める時にも、その他何れに用ひても適切獨自な綜合作用を發揮して能く時期を失はず治療の目的が充分達せられますから、従來腫球の中でも最も優れて居ると云はれる醫學の本場ドイツ製の有名な婦人薬にも全く見出し難い特長があるのであります。

二 純粹ビタミンAD新療法も

婦人病の治療は以上述べた薬の作用だけで申分なく治るのですが、一層進んで、つまりよき上によく爲様と云ふ研究心と、患者の苦痛を一層早く除き度いと云ふ良心的な考へから、理想的な治療が出来る爲めに、現在の治療醫學から云ふと最も進歩したビタミンAD療法と女性ホルモン療法とを採り入れてあるのです。婦人薬としては之れ以上完全な物は從來全くなかつたのであります。

ビタミンADは、御存知の通り強壯劑として虚弱な人に吞ませると非常に良く効く。血色は良くなくなり精力はつき、風邪をひかなくなつて元氣になる。結核患者に吞ませると盗汗、咳嗽等がとれ結果が非

常によいのであります。斯様なビタミンADを外用薬として婦人病に使用すると如何云ふ効果があるかと申しますと、患部の細胞の活動を強く旺盛にして白血球が増加するので殺菌作用が頗る強くなり、糜爛した患部に新しい肉と粘膜をドンドン育て、分泌物が出なくなるのであります。獨逸では盛んに之れを外用薬として使つてゐますが、婦人薬に之れを使つたのは日本ではワセトン球が初めてであります。

三 女性ホルモンの高單位療法も

女性ホルモンは前に(十五頁)述べた様に治療用としては勿論女性美と感覺を増進する美容上から欠く可からざる物ですが、之れを注射するよりもつとよく効かせる新發見法は何と云つても、他劑の絶對眞似の出来ない特長です。

従つてワセトン球は病芯をとる薬の作用とビタミンADと女性ホルモンの作用、此の三つが協力して治療する力は一觸即發ですから、治療は萬點であります。併しビタミンADも女性ホルモンも純粹で力價の高い物でなくてはならないので名ばかりの物では一向役に立たないのであります。ワセトン球には、世界的に信用のある製薬會社のビタミンADと女性ホルモンとを、嚴密な試験を済ませて使用してあるので専門家からも充分信頼されるのであります。

母は強し

悲しい過去の思ひ出も

今は忘れて 朗かな

麗い春の日 春の風

行手の幸が しのばれる

すべての富も 貧さへ

浮世の波の 影坊子

どんなものにも 奪はれぬ

鐵より強い 母の愛

茨の道が あらうとも

吹雪の道が 暮れたとて

何故に 怖かる 悲しがる

鐵さへ溶かす 母の愛

この幸



最高の製薬術で出来てゐる

一 薬効が長時間奥深く作用する特長がある

婦人病治療上困難なのは薬物を患部に長い間作用させる事でこれは治療の日数を早める重要な原因であるが、此の點従来の錠球では不満足であります。

不合理な挿入球——溶けないものや帯下を吸収させるもの等——は、患部に長い時間接して居れば居る程有害な副作用が強くなるに反し、合理的な錠球——理想的に溶けて然も薬理が優れて居るもの——は、溶けてから患部に長い時間着いて居れば居る程、治療作用が優れて強くなると云ふ全く反對の結果が生れます。

ワセトン球は、苦心研究の結果発見された特殊の基礎劑（薬を含ませてある薬）が使用してあるので、溶けた薬は長時間腔の内部に良く吸着いて外へ流れ出す事なく粘膜から深部に薬が浸み込む獨特の浸潤作用があるので、此の作用と腔の生理的吸収作用とが、一致協力して治療する力は非常に強くなるのです。だからワセトン球は豫想以上早く婦人病治療が出来るのです。

〔他剤との比較〕

基礎剤の悪い粗末な膠球は、腔内で客けても腔壁に吸着く作用がなく外へ流れ出るので、薬効を充分働かせる事が出来ず、その上、局部が爛れたり痒痒くなる様な大きな欠点があります。これは従来黒い坐薬がよい例であります。

二 早くよく溶け、浸み込む作用がある

一、ワセトン球の溶解温度は人間の体温と同じですから、腔内で徐々に快く溶け始め、七八分間で完全に溶け、後には僅少も残渣が残りません。溶けた薬物は腔全面に吸着き浸潤作用で内部に浸み込むので使用後、後始末も全然いらすサラリとして實に爽快です。ワセトン球を眞に快く使用する事が出来るのは此の特長があるからです。

〔他剤との比較〕

腔内で溶け難いものは薬の成分、製法が不合理で物理的にも化学的にも内部を刺戟して炎症の場所を擴げて悪化する。溶けても残渣が残つたり成分の粗悪なものは新しく爛れたり、腔外に流れ出て外陰部や大腿を刺戟し、陰門痒痒症、濕疹を起して患者に羞かしさと不愉快を與へます。

三 黒くなく後始末がいらぬ

二、ワセトン球は最も進歩したよくとける薬の膜で包まれ、絶対空気に觸れず氣候の變化を受けない爲内部の薬物は少しの變化を起さず何時も出来た時の新しさで、薬効は完全に發揮され且美しい琥珀色で黒くなく流れ出ないから、外陰部、大腿部に附着したり衣類下着を汚染して、不快を感じたり人目に觸れて羞恥を感じる事は少しもない爲、氣持よく進んで使用され治療の進捗が早くなるので患者にとつては最も有利であります。

〔他剤との比較〕

従来膠球は脂肪性と云つて、脂肪質に薬を混交し固めた黒色の球ですから、空氣の爲めに薬が變化して効目が減じたり、乾いて固くなつて溶けなくなるので、その上を申辯けに一寸包んだ物もあるがそれでも中で溶けてから外に流れ出て氣持を悪くしたり、後始末の面倒があつたり、或は大切な衣類を黒く汚染して人目に觸れたりする爲、自然患者は使用を嫌ひ、治療が充分出来ないのが大きな欠点です。本剤は固めた物でなく溶解した物であるから此の欠点は少しもありません。

女性の居る所必ずワセトン球を

どれ程咽が渴いてゐてもポンプや、釣瓶のない井戸の水で渴きを止める事の出来ぬと同様に、如何に熱心に治療を願つても如何に専心に治療を續けても、眞に良い治療劑、良く効く治療劑を使用せぬ限り到底治癒の光は得られないのであります。

長い期間の治療に心根を磨り切らせ、經濟的に壓し虐がれた揚句、帶下、下腹痛の症状がよくならず月經は不順、月經時に痛む、分量が多かつたり少なかつたりいつ迄も妊娠しない、と云ふ風に、依然として悩み抜く患者の心持は、經驗がなければ到底判らぬ程深刻なもので、婦人科醫の御話を伺つても、婦人病治療薬に並々ならぬ苦心をされてゐるのはよく判るのであります。

こんな處へ、ワセトン球が發明されたのですから、これでこそ學理的にも實際的にも立派な治療劑として専門醫師の御満足は勿論の事、患者の方々の幸福もこれ以上はないのであります。

斯様に申分のない婦人病治療劑ワセトン球を、現に婦人科専門醫としては進んで患者に使用されるは勿論の事、家庭で使用させてゐられるのは當然です。これでこそ煩らはしく六ヶ敷い婦人病の治療を日常座臥の間に、そして正しく實際的に然も經濟的に解決する事が始めて出来るのであります。

女性の幸福への新燈臺

現在帝大病院を筆頭に全國の官公私立大病院婦人科で盛んに使用され、醫學の本場獨逸製品に優るとも劣らぬ權威あるものとして専門家に認識されてゐるのは、ワセトン球があらゆる點から非の打ち處のない優れた婦人病治療劑であるのを如實に知り得る立派な證據であります。

そこで諸種の治療法をやつて見たが何日迄も効果が見えず、悲しい諦めの中に人生の歡びを失はれた方は云ふ迄もなく、現在治療薬の撰擇にお迷ひの方にはワセトン球こそ最も適切な治療劑、合理的に効果ある新治療劑でありますから、明日と云はず今直ぐに御使用なさる様衷心から御奨めするのであります。幸福な主婦、朗かな妻、明朗な婦人として更生するには、實にワセトン球一球が出發點である事を深く御記憶下さい。そして奪ひ去られた幸福を再び御手元へ奪ひ還へされる歡喜の日が一日も早く来る様心から切望するのであります。

使用法其の他について

重症でも一日一回、輕症なら二日に一回で充分です。

處女にも安全 黒くなく流れ出す、べたつかず、薬

人の嫌ふ薬臭さがなく、サラリとして後始末が不要なので絶対に人に知られず進歩した治療の出来るのは新研究薬の賜物ですから、強い神經質の方でも爽快に、處女にも安全に治療が完了されます。

ワセトン球御使用に際して、治療上其の他の事に就き御判りにならない點が御座いましたら御遠慮なく「河原商店學術部」へ御問合せ下さい。懇切に御説明致します。

充分治療しても

薬價は知れたものです

治療費については相當頭をお痛めになる事です。薬價が重荷になる様では決して安心して最後迄治療が出来るものではありません。薬價が重荷にならない程度で以つて「これで充分である。此れ以上治療する必要はない」と云ふ處迄充分治療してもさして苦にならない薬價、それでこそ理想的な治療薬と申せます。

御注文と御買求めの御注意

- 一、直接御注文の時は、薬價に送料各十五錢を添えて、東京市芝區通新町十三番地 總代理店合名會社河原商店へ振替（東京三五〇一九番へ郵便局で拂込む）又は爲替の何れとも御便宜方法で御申込になれば急送致します。
- 二、内地に限り、ハガキで「何球送つて下さい」と御申込みになれば代金引換便の御便宜もあります。が、これは多少御手数がかかる事を豫め御承知下さい。

薬店、デパート薬品部で

御買求めの御注意

ワセトン球は全國有名薬店並に大百貨店の薬品部

ワセトン球は随分高價な各種の薬品を使用しその製法にも獨特の研究を拂つてみますから相當高價に付のでありますが、良い薬を一人でも多く使用して頂き治療の悦びに導き度い爲、汎ゆる犠牲を拂つて奉仕的な薬價として御頒ちします。その効力の素晴らしいのと安價なのは全く鬼に金棒と申されます。

六球	七十錢
十二球	一圓廿錢
廿四球	二圓卅錢
卅六球	三圓四十錢
送料	各十五錢

病院納入包

百四十四球 十三圓

多人數で御使用の場合や持續的に長く御使用の方の治療の御便宜を計る爲特に一般にも御頒ち致します。

にいつも備へてみますが、お求めの時には必ず、帝大病院使用の「ワセトン球」と特にお名指しになりませんと、間違ひが起りますから御注意下さい。萬一品切れの時は、決して代用の婦人薬を奨められても御求めなく、その足で直ぐ、前記河原商店へ御申しかになるのが一番御安心です。



397
337

昭和十五年一月廿五日 印刷
昭和十五年一月三十日 發行

東京市芝區通新町十三番地

編輯兼 河原泰丸
發行者

東京市赤坂區榎坂町二番地
印刷者 福田勝次郎

東京市赤坂區榎坂町二番地
印刷所 恒泰社印刷所

東京市芝區通新町十三番地
發行所 日東製藥合名會社

電話三田(45) 一六八五番
二〇七六番

終

